



末永友美 さん

6年(洪水2区)

心配だなど思いながら東京から山口に転校してきて一年。短かったけれど、東京では味わえない思い出がたくさんできました。全校みんなで協力しながらのたてわり班活動。汗を流して一生けん命登った花尾山。くやしなかったけれど楽しかった運動会。私の心の中は、ここには書ききれないほどの思い出いっぱいあります。



私が大畑小に来る前に思っていたことと違うことが一つありました。それはみんなが兄弟みたいな感じです。



大畑小学校発  
すてきな思い出を作ってくれた  
大畑



俵山から嫁ぎ59年、現在息子夫婦との3人暮らし。働くことが好きで、天気の良い日はいつも野良仕事をしている。

「長生きしても、元気でないといけん。昔の百姓はえらかった。牛で田を耕したこともありましたが。今じゃあ、田んぼも整備され機械で作業をするから楽ですよ」と。「これまで、勤めたことはありません。農業だけで生活してきました。今じゃあ考えられませんがね」とも。

今、一番の楽しみと言えば「大ヶ迫道路公園の一角にある、ふれあい市へ野菜を出すことです。仲間の人々と話ができるし、買いに来られたお客さんとも話ができるんですよ。苗を買って作るから儲からんけど、それでいいんで

### ふるさとながと ③7

## こんにちは



原野 幸康 さん  
(東京都新宿区)

### 故里の自然に誇り

略歴

昭和12年(5歳)から高校卒業まで、湯町区で育つ。日本私立大学協会に奉職。現在同協会事務局長並びに全私学連合事務局長。

終戦の年、昭和20年に大津中学校に入学、その後高校までの6年間、俵山からバス通学を続けました。木炭バスの釜にぶら下がりながら、仙崎港での荷揚げや山林での抗木運びなど、勤労奉仕の思い出が鮮明なのと同じく、自然に恵まれた故里でのワラビ採り、紙すき、田植え、魚釣りなど多くの生活体験が、私自身の仕事に、どれだけ大きな力になってくれたことか、本当にありがたいことです。

常心に心している事があります。今期の改革は、人間の心、マナーの乱れ、文化軸の崩壊、生活水準の喪失、社会・国家・民族への無関心を、どうするか、ここがキーポイントなのです。その原点は、自然の摂理に従い、偉大なる恩恵を思い、山川草木悉皆成佛、生命を尊び、自然宇宙と共生する感性・文化を培うことにあり、その観点からものが故里を誇りに思います。



高校時代仲間と(中段右)